

## 第1章 沿革と目的

### 第1節 目的等

#### 1. 計画策定の目的

本計画は、国の名勝に指定された「三井楽（みみらくのしま）」を将来にわたり適切に保存し、管理するための基本的方針及び名勝地に相応しい整備・活用の方針を定めることを目的とする。

#### 2. 計画策定に至る経緯

「三井楽（みみらくのしま）」は、古来、遣唐使船最後の寄港地として利用され、日本の西の果てとして知られるようになり、「蜻蛉日記」や「散木奇歌集」などの古典文学にも、亡き人に逢える「みみらくのしま」として詠まれ、歌枕として定着していった。

「三井楽（みみらくのしま）」は、その時代の雰囲気の色濃く残す優秀な景勝地であることから、平成25年夏頃より国名勝指定への取り組みを開始し、同意取得など指定に必要な条件を整え、平成26年1月27日付けで文部科学大臣あて意見具申書を提出した。その後、文化審議会へ諮問され、文化財分科会、専門調査会での審議を経て、平成26年6月20日に「遣唐使船が中国大陸に出船する前に、最後に停泊した風光明媚な海浜。『肥前国風土記』に記され、『万葉集』の山上憶良の和歌に起源する名所であり、『蜻蛉日記』などにおいて亡き人に逢える島（みみらくのしま）として歌枕となった五島列島の風光明媚な海浜。（同日の文化庁報道発表資料より抜粋）」として、国の名勝に指定するよう答申がなされた。

平成26年10月6日の官報告示により、正式に国の名勝指定を受け、平成28年2月3日の官報告示により五島市が管理団体となった。

平成26年11月15日には、名勝指定を記念し、文化庁記念物課の本中眞主任文化財調査官（当時）、奈良大学の東野治之教授（現：名誉教授）、九州大学の清野聡子准教授をお招きし、シンポジウムを開催、地域住民の方々への情報発信に努めてきた。またこの間、県内の有力新聞紙である長崎新聞にも大きく取り上げられた（第7章2参考資料を参照）。

以上のことから五島市では、管理団体の責務として、上記の目的により保存管理計画書を策定することとし、文化庁の国庫補助を活用しながら平成27、28、29年度の3ヶ年にわたり計画策定事業を実施してきた。

なお、平成26年度については保存管理計画策定として事業計画を進めていたが、平成27年度の要項改正に伴い保存活用計画策定へ名称の変更をした。この変更により、委員会名についても保存活用計画策定委員会として発足し、保存活用計画書としてまとめている。

## 第2節 事業概要・内容

### 1. 事業概要

事業名	国指定名勝「三井楽（みみらくのしま）」保存活用計画策定事業
事業期間	平成27年6月1日～平成30年3月31日（3ヶ年度）
事業の目的	名勝「三井楽（みみらくのしま）」の適切な保存管理を図り、あわせて名勝地の価値に沿った保存管理や整備活用等について整理し、保存活用計画を策定することを目的とする。

### 2. 事業内容

以下の策定委員会、又は作業部会で協議を重ね、保存活用計画を策定した。なお、この計画策定業務の一部（構成要素の抽出・調査・実測、図面作製など）は株式会社修復技術システムに委託した。

年 度	内 容
平成27年度	<p>第1回策定委員会開催（H28.3.11）</p> <p>○策定支援業務委託：㈱修復技術システム 柏崎公園、ふぜん河の測量及び指定範囲の空中写真撮影実施</p>
平成28年度	<p>第2回策定委員会開催（H29.1.27）</p> <p>第1回作業部会開催（H29.3.14）</p> <p>○策定支援業務委託：㈱修復技術システム 調査計画・準備、概況補足調査、名勝を構成する諸要素等の把握、名勝を構成する諸要素の特定、地区の設定</p>
平成29年度	<p>第3回策定委員会開催（H29.9.5）</p> <p>第4回策定委員会開催（H29.12.5）</p> <p>○策定支援業務委託：㈱修復技術システム 保存・管理の基本方針の検討、保存管理の方法の検討、現状変更等の取扱方針検討、課題点の整理</p> <p>○計画書印刷</p>

### 第 3 節 検討体制

#### 1. 策定委員会の構成

本計画策定にあたっては、有識者で構成する「名勝三井楽（みみらくのしま）保存活用計画策定委員会」を設置し、策定委員会の中で協議を重ね、市関係部署、関係機関及び地域住民の方々とも連携を図り、また文化庁や県の指導も受けながら計画内容の検討を行ってきた。

なお、委員会等の構成は以下のとおりであり、事務局は五島市教育委員会生涯学習課が担当した。

#### ■名勝三井楽（みみらくのしま）保存活用計画策定委員会名簿

	委員氏名	所 属 等	専門分野
委員長	谷川 良二	五島市文化財保護審議会委員	郷土史（地元委員）
副委員長	吉田 寛司	三井楽町地域おこし会「万葉の風」代表	郷土史（地元代表）
委 員	勝俣 隆	長崎大学 教育学部 教授（現：名誉教授）	日本文学(国文学) 日本語学(国語学)
〃	永松 義博	南九州大学 環境園芸学部 教授（現：名誉教授）	造園学
〃	清野 聡子	九州大学 工学研究院環境社会部門 准教授	生態工学、 海岸・河川の環境保全学 水生生物学
〃	有川 一男	五島市文化財保護審議会委員	キリスト教史

#### ■指導及び協力機関等

氏 名	所 属 等
平澤 毅	文化庁文化財部記念物課文化財調査官（名勝部門）
上戸 秀龍	長崎県教育庁学芸文化課文化財班文化財保護主事 （平成 27 年度～平成 28 年度）
柴田 理音	長崎県教育庁学芸文化課文化財班主任主事 （平成 29 年度）

## 2. 策定委員会開催の経過等

平成 27、28、29 年度と計画内容の検討を行ってきた策定委員会は、策定までに 4 回開催し、指定区域内の調査研究や重要な構成要素の検討等を行ったほか、各委員とは随時協議しながら取り組みを進めてきた。

### ■計画策定委員会開催の概要

	期 日	検 討 内 容
第 1 回	平成 28 年 3 月 11 日	①保存活用計画策定の目的等の説明 ②現状変更に関する方針説明 ③進捗状況報告（測量の実施等） ④保存活用計画のうち地域及び名勝の概要に関する部分について事務局案を検討
第 2 回	平成 29 年 1 月 27 日	①進捗状況説明 ②第 4 章から第 6 章の素案を提示 ③ビュースポットの選定（現場へ）
第 3 回	平成 29 年 9 月 5 日	①第 3 章 第 3 節 名勝の本質的価値と構成要素の変更の検討 ②第 1 回作業部会の内容の検討 ③保存・管理の基本方針の検討 ④保存管理の方法の検討 ⑤現状変更等の取扱い方針の検討 ⑥整備活用の基本方針の検討 ⑦運営及び体制の検討 ⑧今後に向けての検討
第 4 回	平成 29 年 12 月 5 日	①第 1 章 沿革と目的について ②第 2 章 指定に係る事項について ③第 3 章 地域及び名勝の概要について ④第 4 章 保存と管理について ⑤第 5 章 整備活用と管理運営について ⑥第 6 章 今後の取り組み（課題等）について

### ■作業部会開催の概要

	期 日	検 討 内 容
第 1 回 作業部会	平成 29 年 3 月 14 日	①保存管理についての検討 ②整備活用と管理運営についての検討 ③今後の取り組みについての検討